

致しました。

GDN-JapanとEADNによるコンセプト案では、年次会合のメインテーマに沿い、「アジアの開発金融の多様化」をテーマとして掲げ、金融危機後のODAの傾向、またアジアの新興ドナー等に関するプレゼンテーションを予定しています(前号にて、ご報告済み)。

つきましては、下記の資料内容をご確認いただきますとともに、遠方ではございますが皆さまの本会合への積極的なご参加をお願い致します。

①第12回GDN年次会合・概要

②GDN-Japan・EADNコンセプト・ペーパー

【news etc.】

▼GDN国際開発賞(GDN Awards & Medals Competition)2010募集期間延長のお知らせ
GDN国際開発賞の募集期間が延長されましたので、改めまして、本賞の概要と募集期間についてお知らせ致します。

日本政府が2000年以来、その主要部分の支援を行っているGDN国際開発賞は、発展途上国の研究者によるユニークな調査研究や開発プロジェクトのイノベーションを奨励することを通じ、人材育成することを目的に設けられているものです。

その趣旨から、応募者は途上国からに限られますが、日本の機関や個人と連携して調査研究やプロジェクトを実施している途上国の研究者や実務者なども応募することができます。同賞は調査研究部門とプロジェクト部門に分けられ、前者は完成した論文、もしくは今後実施予定の研究プロポーザル、後者は現在実施中で今後拡大・発展を予定しているプロジェクトが対象となります。募集テーマは「開発金融(Development Finance: Channelling finance to sustainable development)」をメインとし、個別テーマとして以下の3カテゴリで募集しています。

“External Capital Flows and Financing for Development”

“Domestic Resource Mobilization and Financial Sector Development: Another Angle to Look at the MDGs in a post-crisis world?”

“Innovative Sources of Development Finance”

調査研究部門募集の締め切りは、10月25日までに延長されました(*プロジェクト部門につきましては、9月22日に締め切られました)。最終選考に残った応募者は、コロンビア・ボゴタで開催予定の第12回GDN年次会合に招待され、プレゼンテーションの結果を受けて受賞者が決定されます。応募資格を有する開発途上国の研究者の方々に、幅広

くお声掛けいただければ幸いです。

■ 参照

http://www.gdnet.org/cms.php?id=2010_awards_launch_feature

<http://www.gdnet.org/cms.php?id=2010awards>

▼GDN開発賞受賞NGO訪問レポート ～林アドバイザー～

林薫GDN-Japanアドバイザーが、前回のGDN国際開発賞プロジェクト部門で受賞したインドのNGO“Dream a Dream”を訪問しました。

同NGOは、スポーツや芸術活動を通じ、貧困層の子供たちの生活能力向上のための活動を行っています。

林アドバイザーによるDream a Dream訪問レポートをご覧ください。

8月下旬、小職の勤務する文教大学の3年生の学外実習でインドを訪問した際に、2010年のGDN(Global Development Network)において”国際開発賞プロジェクト部門(Most Innovative Development Project)”で第2位となったNGO、Dream a Dream の本部を訪問し、実際の活動状況を見る機会を得ました。今回訪問したのは8月27日(金)と28日(土)で、主催者でプラハのGDN年次会合にも参加したVishal Talreja氏、その他主要なスタッフの方々とお話ができました。

インドは貧富の格差が激しく、貧困層の子供たちは、その貧しさから、親から十分なケアがなされないなど、家庭にさまざまな問題を抱えている場合が多くあります。このような子供たちは情操や他者とのコミュニケーション能力の障害をもたらし、社会参加、就業などの機会に制約を受けてしまい、貧困から抜け出せないという悪循環に陥っています。このような状況からDream a Dreamは、子供の「生活能力(Life Skill)」の発展に力を置いています。生活能力とは「個人が日常生活の様々な要請や課題に適切・効果的に対処するために必要な、環境に適応し前向きに対処できる能力」で、具体的には以下のようなものです。

- ①チームワーク、コミュニケーション、交渉、対処などの対人関係能力
- ②意思決定、問題解決、批判・分析などの認知的能力
- ③創造、自信、自己反省、他者への共感などの能力。

Dream a Dreamは、1999年に創設以来、子供たちのニーズ(食料、住居、基礎的医療、初等教育など)に対しては行政やNGOなどの支援が及びつつある一方で、社会参加、社会統合が遅れている状況に鑑み、多くのNGOや市民社会組織と連携し、ボランティアを中心とした活動をそのアプローチの中心に据えています。スポーツや芸術活動を通じて、

子供たちの生活能力向上を目指しています。

スポーツの中では特にサッカーに力を入れています。サッカーを選択した理由は、インドでも最近では人気が高く、クリケットなどに比べて、用具などに費用がかからないためということでした。サッカーのほかにラグビーも行っています。集団スポーツを通じてチームワーク、コミュニケーションなどを学ぶことが目標です。学校や競技団体など11の組織と提携しており、現在32チームがあつて、週2回ほど、1.5～2時間の練習を行っています。8月27日の夕刻、ヒンドゥー寺院が運営しているフリースクール(授業料無料)での練習に行き、日本からの大学生は実際に練習に参加しました。2チームあり、1チームはユニフォームが支給された男女混成チームがサッカーの基礎的技術の練習を行っていました。もう1チームは、結成されたばかりのチームで、学校の寄宿舎に住む男子のみで構成され、基礎的な体の動かし方のトレーニングを始めたところでした。専門のコーチがそれぞれのチームを指導しており、生徒たちも楽しく参加していました。スポーツの中でのもう一つの柱はキャンプ(adventure camp)であり、遠出したことのない子供たちを山や海に連れていき、キャンプ生活を通じて共同作業を体験させています。

スポーツと並ぶ柱である芸術活動(Creative Art)は、図画が中心です。アート指導者のもとに15人ほどのチームを編成し、現在25～30チームが活動しています。芸術活動の目的は自己表現力の涵養で、お手本通りに上手に書いたりすることは目標にされていません。何が書きたいか、子供たちの意見を聞いてから始めており、子供たちの意欲が高まっていないときには無理に書かせず、他の遊びをすることもあるそうです。

子供たちには、それぞれ、相談相手となるメンターがついています。メンターは主にボランティアで、子供たちの相談に乗りつつ、必要な場合にどのような判断を行うか、感情をどのようにコントロールするかなどのアドバイスをしています。また、子供の潜在能力を伸ばすために、コンピューターを活用した自己表現、特にパワーポイントやワードの使用法の指導を行っています。これも、指導者はボランティアです。

Dream a Dreamは、累計2200人の子供たちのケアを行ってきましたが、今後は、これまで行ってきた活動をモデルとしてNGOなどに普及させ、支援の規模を数年内に24万人規模にしたい。また、政府のプログラムとしての採用を働き掛けていきたいとしています。運営は多くのボランティアによって支えられています。インド国内のボランティアのみならず、カナダ、オーストラリアなどからもボランティアが参加しています。日本からのボランティアも大歓迎とのことです。2009年の活動規模は約1000万ルピー。支出面では18%が事務経費で他は活動経費です。事務経費は日本円に換算して400万円ほどの極めて少額です。国際開発賞の賞金は、今後の活動のためにたいへん大きな意義を持っています。また、6割以上が寄付金で運営されており、地元のIT企業なども出資しています。もちろんNGOとして免税のステイタスを得ています。

インドは貧困や格差など大きな問題を抱えていますが、政府の公共政策ではカバーしきれず、穴を埋めるNGOの活動は極めて重要です。そのため、単にサービスの提供というよりも、政策提言や社会変革などの機能も果たしています。大部分が行政の下請けと化している日本のNPO、NGOとは大きな違いです。「公共の担い手」は誰かという論点に示唆を与えるところが大きいと思います。Dream a Dreamは活動や財務全体について十分にアカウンタビリティが確保されており、開発賞資金が授与されるにふさわしい活動であることが確認できたと思います。

GDN-Japanアドバイザー
林 薫

▼GDN-Japan第21回ネットワーク会合開催のお知らせ

GDN-Japanの運営協議会・第21回ネットワーク会合を、下記の日程で開催させていただきます。ネットワーク会合では、2011年1月に行われる第12回GDN年次会合(ボゴタ)に関して、また、近藤正規理事(任期=2010年12月末日)の後任などについて、話し合われる予定です。

- 開催日 2010年12月3日(金)
- 開催時間 ①運営協議会 10:00~10:30
②ネットワーク会合 10:30~11:30
③ランチ懇談 11:30~(希望者のみ)
- 会場 JICA研究所内

▼GDN-Japanヘッド交代について

JICA内部の人事異動に伴いまして、9月1日付でGDN-Japanヘッドが三輪修己から小中鉄雄に交代致しました。つきましては、三輪前ヘッドより退任のご挨拶を申し上げます。

GDN-Japanの皆様

本年9月1日付をもちまして、JICA研究所から農村開発部に異動しました。

2006年4月に旧JBIC開発金融研究所次長の職に就いて以来、約4年半に亘りGDNに関与してまいりました。途中、旧JICA/JBICの組織統合があり、2008年10月に新JICA研究所が設立されましたが、同研究所次長として引き続きGDNに関与することができました。この間、GDN-Japanの皆様には多大なご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。お蔭様で、2007年の北京年次総会以来、翌2008年のブリスベーン、2009年クウェイト、2010年のプラハ会合に至るまで、GDN-Japan主催パラレル・セッション(プラハはEADNとの共催)やワークショップの開催など、無事、RNPヘッドとしての職責を全うすることがで

きました。厚く御礼申し上げます。

この4年半はGDNにとって激動の4年半であったと言えます。2007年7月、GDN創始者であるLyn Squire氏の総裁引退、翌8月の公募による後任選定、選ばれたGobind Nankani氏(前世銀アフリカ担当副総裁)も諸般の事情で2009年3月に辞任、同年8月から同様に公募で選ばれた現在のGerardo della Paolera氏(前仏アメリカン大学学長)に引き継がれています。他方、GDNの組織そのものも、それまでのNPO法人格から2008年に国際機関へと発展を遂げています。それまでの世銀経験者から純粋な研究者が国際機関となったGDNの指揮を執ることになったわけで、今後のPaolera氏によるGDN運営の方向性が注目されます。

一方、GDN-Japanでも、今回の異動により、私の後任として小中次長が新RNPヘッドとして着任しました。同次長は旧JBIC開発金融研究所勤務経験もあります。さらに、長年、日本代表理事としてご活躍された近藤先生ですが、任期満了に伴い年内の交代を表明されています。大変ご活躍された理事でしたので、交代は大変惜しいのですが、任期満了ということでやむを得ません。後任は検討中ですが、近藤先生のご推薦等も勘案の上、新RNPヘッドの下、最適な人材が選定されるものと期待しています。新理事、新RNPヘッド共々、皆様のお引き立てのほど、よろしくお願い申し上げます。

本来、直接御礼にお伺いすべきところ、一部の皆様におかれましては本メッセージのみのご挨拶となりましたこと、ご容赦下さい。

末筆になりますが、皆様の更なるご活躍・ご健勝と、GDN/GDN-Japanの更なる発展を祈念しています。

JICA農村開発部次長
三輪 修己



▽次回は2010年11月下旬に配信予定です。

▽お問い合わせやご意見、ご感想、また配信先の変更・解除は、こちらまでお願い致します。

dritrn-gdn-japan@jica.go.jp (GDN-Japan事務局)



発行：GDN-Japan事務局(JICA研究所 企画課内)

制作：JICA研究所 企画課 編集・発信ユニット

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5 JICA研究所内

<http://www.jica.go.jp/gdn/japanese/index.html>